

株式会社セブン-イレブン・ジャパン  
日本デリカフーズ協同組合



プライムデリカ株式会社

「食」を扱う共同体として  
環境への自主的な取り組みを  
推進しています

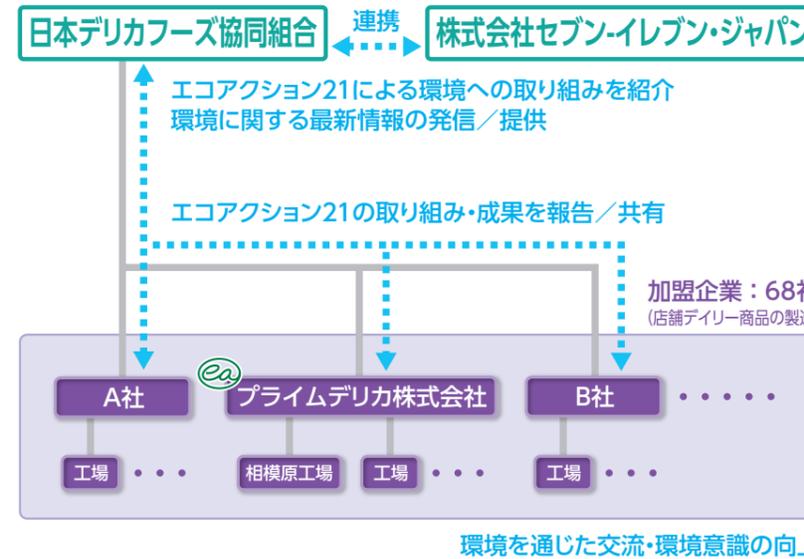
株式会社セブン-イレブン・ジャパンのオリジナルデ일리商品を製造・納入する企業を取りまとめているのが日本デリカフーズ協同組合です。様々な取り組みのなか、加盟する各企業と連携、安心・安全なラインアップを揃えることでお客様の期待と信頼にえています。

日本デリカフーズ協同組合の加盟企業であるプライムデリカ株式会社は、店舗に並ぶサラダ・サンドイッチ・軽食・惣菜・デザートを製造、毎日安心・安全な商品を作りお届けすることを大切にしています。

今回紹介する相模原工場では、日本デリカフーズ協同組合と連携してエコアクション21の認証を取得、事業活動における環境負荷軽減を図るとともに、人にも自然にもやさしい環境保全活動へ積極的に取り組んでいます。



プライムデリカ株式会社



株式会社セブン-イレブン・ジャパン

〒102-0084 東京都千代田区二番町 8 番地 8

日本デリカフーズ協同組合

〒102-8456 東京都千代田区二番町 10 番地 3  
ビーエム長野ビル 4 階

プライムデリカ株式会社

〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台一丁目七番一号  
(本社・相模原工場)

【事業内容】  
調理パン、デザート、サラダ、軽食、惣菜の製造販売  
【EA21 認証・登録番号】  
0010706 (最新の環境活動レポートは  
http://www.ea21.jp/list/pdfn/0010706.pdf を  
ご覧ください)

日本デリカフーズ協同組合

加盟企業が取り組みやすいシンプルなEMS  
環境と経営をつなげていくツールとしてエコアクション21はよく考えられています

日本デリカフーズ協同組合 (NDF) がエコアクション21を紹介している背景には、加盟企業68社180工場のうち、大手5社が半分、残りは中小企業という組合構造があります。ISOではついていけない企業も現れてくるのではないかと、いうリスク。それでは全く意味がありません。そこで、加盟企業が取り組みやすいシンプルな EMSであるエコアクション21を環境対策会議の旗印として、環境に係る様々な情報を収集、整理、発信しています。環境省のエコアクション21は、シンプルでありながら加盟企業にとって取り組みやすいところが評価されます。環境と経営をつなげていくツールとしても考えられていて、こうしたシステムの持つ優れた部分は、もっと企業のトップにも自覚していただきたいと考えています。エコアクション21と知り合えたことは、とてもいい出会いだったと感じています。

セブン-イレブン・ジャパンでは「商品、原材料、エネルギーの無駄を省き、地球環境の保全に貢献します」という約束の実現に向けて、地球環境の持続可能性に配慮した商品・サービスの提供を行うとともに、お客様・お取引先・従業員とも協力し、サプライチェーン全体で環境負荷の低減に取り組んでいます。オリジナルのデ일리商品を製造する工場では、日本デリカフーズ協同組合が「NDF環境対策会議」を開催し、セブン-イレブン本部と加盟企業との情報共有や共同施策を推進、全国工場における省エネの取り組みや廃棄物の管理・リサイクルに注力しています。

導 入 行

お客様にご満足いただける「おいしく、安全・安心な商品」を開発・製造し、地域に貢献できる企業であるために環境対策は必須です。「サプライチェーン全体で環境負荷の低減に取り組む」とされるセブン-イレブン・ジャパン、そして加盟している日本デリカフーズ協同組合の基本理念、そして考え方を共有させていただき、私たちにできることを率先して、自主的に取り組んできています。その結果が、エコアクション21の認証取得ということになります。

弾力的な運用、本業とリンクしやすいところ  
当社がエコアクション21導入を決めた理由です

ひとりの人間として、地球温暖化問題などでは世界レベルの危機感を持って

プライムデリカ株式会社

いました。地球環境を伝える書籍にも目を通し、地球は冷やしていかなければいけないんだと、ずっと考えていました。その後、社長就任を機に会社としても地球環境保全を経営の最重要課題の一つとして、持続可能な社会の実現に向けた環境経営に乗り出すことにしました。当初は ISO14001を取得する予定でしたが、やるべきことはどちらも一緒で、エコアクション21の方が中小企業に向いていてとても取り組みやすいシステムだということが、いろいろと調べるうちにわかってきました。しかも ISOのようにがんじがらめでなく、弾力的な運用ができそうなところにも親近感が持てました。PDCAのマネジメントシステムとしての機能と、本来業務とリンクしやすいところにも惹かれて、当社ではエコアクション21を導入することに決めました。

カテゴリ別原単位による比較も良い刺激に。  
エコアクション21の特長を活かして加盟企業を組織としてつなげていきたい

日本デリカフーズ協同組合では、これまでも加盟企業が組織としてつながっていく、組合活動の一つひとつをつなげていくしくみ、ツールを探していたところです。環境活動も、まずは自分を知ること、それも客観的に知ることが大切であり、そのためのツールとしてもエコアクション21は有効だと考えています。さらに組合では、個別に数値化された環境活動を、製品カテゴリや工場規模などを考慮した原単位で分析、相対的な自社の位置がわかるような情報に加工して開示するようにしています。その結果、本当の自分の位置、環境活動の成果がわかるようになり、それを環境対策会議にフィードバックすることで、その後の会議

運営につなげています。とりわけ規模も製品も類似している企業同士では、こうした客観的な比較が良い刺激になっているようです。

地球温暖化防止に向けた取り組みなど純粋な理念で動く部分と、こうした他との比較で動かされる部分とが相まって、環境活動の原動力につながっていくのだと思います。さらに、加盟企業の工場は全国に散らばっており、全国区の公正・公平な基準は必須です。カテゴリ別原単位による比較は、こうした要求にマッチしたのではないかと考えています。

成 果 果

廃棄物を1/10に削減  
本業の収益にもつながっています

サラダ・軽食を製造している相模原工場では、レタスの外葉や芯が毎日8,000kg以上、野菜くずとして発生しています。これまで食品廃棄物として処理していましたが、コストがかかるうえに、環境にもやさしくありません。そこで「エコセンター」を新設、特殊な脱水機にかけて野菜くずを1/10の800kgまで減容化することに成功しました。これによって処理業者への委託回数が増え、廃棄コストの削減など本業への効果も出てきています。

協力農家さんとの二人三脚も  
環境活動のひとつだと考えています

もうひとつ、エコアクション21の取り組みとして盛り込もうとしているのが、レタスの外葉を協力農家さんの方であらかじめ捨ててもらおうというやり方です。これまでは納入してから不要部分を取り除き、廃棄物にしていたのですが、このやり方によって工場での廃棄物が減り、原材料の歩留まりも向上、同時に虫の混入も未然に防ぐことができるようになりました。農家さんの方では、取り除いた外葉が肥料の一部となり、究極のリサイクル、環境にもやさしいやり方ではないでしょうか。

「やってくれ」ではなく「やってみよう」と思わせることが大切だと考えています

セブン-イレブン・ジャパン、日本デリカフーズ協同組合ともに、取引先企業には自主的な活動をお願いしているところになります。NDF環境対策会議においても、これは同じです。環境マネジメントシステムの導入も、強制ではなく、あくまでも加盟企業の自主性、自主的な活動にゆだねています。一方で、審査人の知見を広く伝えたり、環境関連法制の整備・改正情報をいち早くキャッチして発信したりと、情報発信・共有のサービスには継続的に力を注いでいき、エコアクション21の取得メリットについても会議などで伝えていくつもりです。加盟企業に「やってくれ」ではなく、「やってみよう」「やりたいな」と思わせる

こと、これが大切だと考えています。

製造工場ですので、品質保証の認証は取得済みですし、そういった意味では、EMS導入の土台は各企業に根づいています。その土台に、環境やその他のシステムが順次乗っかっていくイメージですから、導入の障壁は、他の業界よりも低くはなりません。食品リサイクル率でもそうですが、今は「1社で取り組む」から「グループ全体として取り組む」時代です。エコアクション21を、ゴミの分別一つでもパラパラの現状を気づかせてくれる、利用しやすい道具として捉えていただければ、加盟企業を増やすため、これから啓蒙活動を続けていきたいと思っています。

課 挑 題 戦

協同組合の思想を引き継いでパートさんを含めた全従業員への自主的な浸透を図ります

エコアクション21は全員参加型の環境マネジメントシステムですが、社員はもちろん、パートさんを含めた従業員全員への浸透がこれからの課題だと思っています。とりわけ外国人パートさんへの理解に心を砕いていかなければと考えています。活動の成果を数値化・見える化して従業員へ展開、モチベーションの向上を図るとともに、入退場の時に必ず目にする場所に設置された、手洗い方法などを動画で見せるタブレットに、エコアクション21の案内を流すことも有効ではないかと考えているところです。

これから認証取得を目指している他の工場と合わせ、11の工場全体で「カエ

ル会」という改善活動の報告会を開催していますが、この会で環境をテーマにした発表、たとえば節水活動に取り組んだ成果報告など、パートさんを巻き込んだ活動を報告をするようになると、意識も変わってくるのではないのでしょうか。

組合からの情報発信、情報提供には、導入時もそうですが、導入してからも大変助けてもらっています。法規制など、私も素人にはなかなか調べきれないですし、調べてもわからないことばかりです。それを組合の方で事前に情報を収集、展開していただけるのは、組合員サービスとしてとても有益だと思っています。強制ではなく自主性を尊重され、加盟企業の総意・合意で物事を決めていく組合のやり方と合わせて、このすばらしいしくみを、いつまでも続けていってほしいですね。